

	<p>2021年 12月1日 第147号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://mizumidori2.eco.coocan.jp E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 090-1423-9894</p>
---	--

赤塚公園徳丸地区で見つけた 自然の宝物

10月24日、どんぐりまつりで、いたばし水と緑の会は徳丸地区の散歩にでかけました。場所は赤塚公園中央地区（噴水のあるところ）の中を通り抜け、高速通りの下をくぐって左側。散歩に来る人はほとんど舗装された園路を歩きますが、園路の外側には草地があり、奥に池があります。この池の水はどこから来るのでしょうか？ 突き当たり左に山道があります。



この山道から散歩が始まります。東京にこんな山道があるなんてね。

親子連れは、お母さんがベビーカーを持ちお父さんが子どもを抱っこして登りました。山の頂上あたりは、標高25m位、噴水のある公園(中央地区)は標高5.6mだから、約20mを登ったことになります。

山の上は住宅地。この崖の上が武蔵野台地、崖下が荒川の低地で板橋区の地形の特徴である崖の風景です。かつて崖の上には農家があり畑があり、崖下にはたんぼが広がっていました。武蔵野台地にある練馬区や杉並区は平坦地で板橋のような崖線はありません。

山の上に出たら、山(崖)に沿った道を東に進むとドングリがいっぱい落ちている広場に出ます。



ひとしきりドングリ拾いをして、進むと今度は小さな松林。

大きな松ぼっくりをたくさん拾いました。

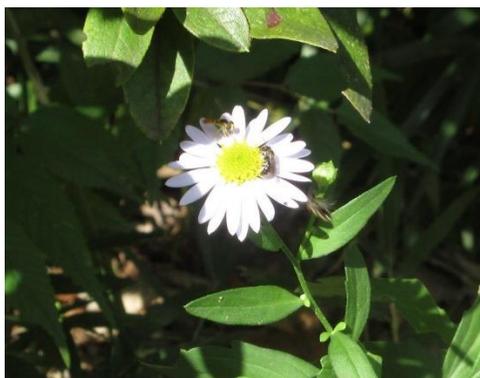


松林の先から、坂道を下って崖下の道を左に曲がり、崖下の広場にでます。ツル植物が森を覆っています(マント群落と言って、森の乾燥を防ぎ、森を守っています)。カラスウリの赤い実がぶら下がっていました。



この辺りにはヤブツバキの群落があります。早春には赤い花が見られますが、今の季節は、はじ

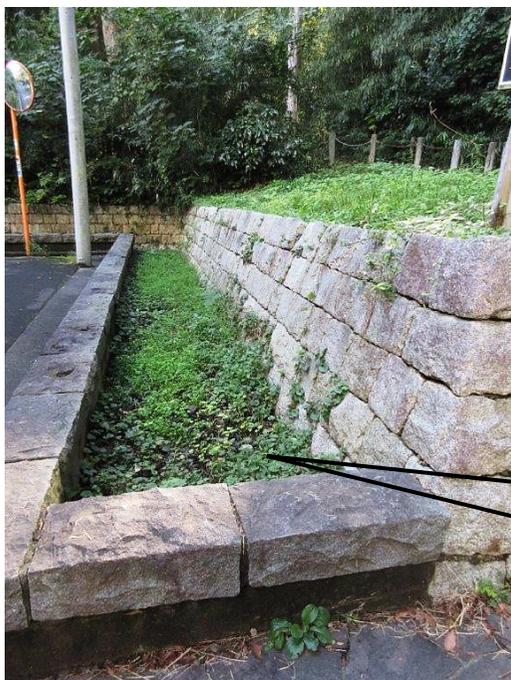
け実や地面に落ちたつやつやした種が見つかります。野菊も咲いていました。



ここに湧き水がある

崖下にコンクリートの水路があり、水をたたえ、水生植物のクレソンが一面に茂っていました。この水路の上に日本の湿地に生えるセリが生えていました。もう少し水気が少ない場所にはニリンソウも自生しています。地面の微妙な水分量の違いで、植物が棲み分けているのがおもしろいですね。

水路の水は「湧き水」。湧き水のイメージとはちょっと違う??でもこれも「湧き水」です。水路の水は公園の入口で柵に落とされ、公園の池の水になっています。



湧き水はここで樹に落とされ
写真上の池の水になります。

「板橋区民によるむかしの自然の記録①」に、上田千佳子さんの話があります。
「紅梅小学校北側の崖下の湧き水を何度か見た。湧き水は下から1m位の高さで、水道水の蛇口を全開したくらいに水量が流れ出て、下に桶を置いて、菜っ葉や白菜などの野菜を洗ったり、近所の人が洗い物に使っていた。この崖線に沿って、いたるところで水がしみ出ていてじめじめしており、崖にはコナラやクヌギの木がうっそうと茂っており、東京でこんなに水量の多い湧き水があることに感動した覚えがある（昭和28年ごろ）」とあります。

湧き水は雨が地面にしみ込み土に蓄えられ、ゆっくり地表に出てきた水です。住宅が立ち並び、屋根や道路に降った雨は下水管に排出され、雨の浸透する地面は減っています。湧水は土と緑の恵み「健全な水循環」の証です。

行政は潤いのあるまちづくり、温暖化対策、災害に強いまちづくりに向けて、崖の上の紅梅小学校や住宅に降った雨を土にもどす雨水浸透樹の設置普及にいつそう努めてほしいですね。

雨水浸透樹（右図）については、板橋区役所環境政策課自然環境保全係にお問い合わせください。



トンボ池の柿が赤くありません

トンボ池の柿が赤くなって通りがかりの人が立ち止まってながめたり、写真を撮ったりします。「これは渋柿ですか」「はい、渋柿ですよ」「干し柿にするから取りたい」「熟すと甘くなって野鳥が食べにくるので、このままそっとしておいて下さい」とお願いします。昨年、会報で渋柿の紹介をしました。私は渋柿を食べに来たメジロ、シジュウカラ、ヤマガラ、ムクドリ、ヒヨドリ、シロハラ、ツグミを見ました。カラスも柿は好きだと思いますが、食べているところを見ていません。食べにくいのでしょうか。渋柿の赤い色が暖かく、野鳥で賑わい、私たちを楽しませてくれましたが、今年の1月20日過ぎには、食べ尽くされてしまいました。さて、この冬、渋柿はいつまで枝に残っているのでしょうか。



ヤマガラ(左)とメジロ(右)
2020年12月13日

「トンボ池には何がいますか？」

「トンボ池の管理って何をしますか？」

通りがかりに立ち寄って、あまりきれいとも言えないトンボ池を覗き込む人は少なくありません。「草を刈るんですか？」刈っているように見えません。ゴミを片付けたり、流入する湧き水や池の水が見えるようにフェンス際の草を刈ったりします。本当は何もしない方が自然なのでしょう。

「どんな生き物がいますか？」トンボが来て産卵するし、カエルが卵を産んでオタマジャクシになるけど、天敵が多いので、ヤゴからトンボに羽化したり、オタマジャクシがカエルになることはほとんどありません。でも人が入らない場所なので、ジョロウグモの巣が何カ所もあるし、水面の上や草むらからクモ、カマキリや、クビキリギリス、ヤブキリギリスが出てきたり・・・ザリガニは池に年中いますよ。

「うーん、もっと他には？」もっと魅力的な生き物のことかな？トカゲ、カナヘビ、それからヘビもいますよ。

「えっ ヘビがいるんですか、ヘビがいるなんて僕は引いちゃいますよ」ここには、アオダイショウとヒバカリというヘビがいます。ヘビ、トカゲ、カナヘビ、カエルは、生きた生き物を食べるので、「何もいないように見えても生き物がいる自然の場所なんです」。こんな説明だけどわかってもらえたかしら？



夏を過ぎ、涼しくなるとあれほど元気だった植物の生長は止まり、11月には草が枯れはじめ、卵を産んで死んでしまう虫もいるし、生きている虫は枯れ草に身を潜めて冬を過ごします。冬には枯れた水草や地上部が枯れた草、冬も枯れずに元気な笹を刈ります。それが本当によいことなのかわかりませんが、見た目も考えなければなりませんし。

また池の中は、作業がしやすい冬に湧水の流入を止め、池を干して、ヘドロを浚って、池底の生き物を調べています。ほとんどがザリガニですが・・・こんな池の管理に関心のある方はご連絡ください。



23日に水路の点検と程々の草刈りをしました。水路の上はジョロウグモの網のトンネルです。ジョロウグモの命もあとわずか。最後の獲物を捕る網を壊してしまいました。ごめんね。

草や落ち葉をひとまとめにしようと、持ちあげたら、下に大きなカエルがじっとしていました。カエルはこういう場所で冬を過ごします。枯れ草や枯れ葉を元に戻しました。春になったらトンボ池に卵を産みに来るとでしょう。トンボ池のまわりで、ヘビや、カエルや、トカゲなどが落ち葉の布団の下などで冬を過ごすのでしょうか。

バッタ広場でも

草刈で冬越しの生き物に出会う

草刈りがはかどる季節です。でも冬を越す生き物の居場所も考えなければなりません。作業中に虫たちが出てきました。清水さんがクビキリギリスに噛まれて痛かったそうです。クビキリギリスは顎の力が強く、噛みつかれた状態で強く引っ張ると頭部が抜けることが名前の由来だとか。私は噛まれたことはありませんが。

どんぐりまつりの会場で

10月24日赤塚公園中央地区で開催されたどんぐりまつりでは、メインの木の実や、オーガニックコットンの工作などが賑やかに繰り広げられました。

いたばし水と緑の会は、工作は苦手なので、身近な自然をいろいろ展示して楽しんでもらいました。

① ドングリの種類と見分け方

② 生き物の展示 脱皮殻、セミの抜け殻いろいろ、セミの死骸いろいろ、公園で拾った生き物死骸いろいろ・・

私たちの自慢は、モグラ(剥製)、タマムシ、アオオサムシの実物です。

子ども達はドラえもん図鑑などで物知りです。恐竜の専門家のような子どももいます。私の想像では、情報は豊富でも、実際の生き物を見たりさわったりすることは少ないように思いました。

③ 木の年輪を数えてみよう

④ 生き物カルタ

「いきものたちは何を食べるの？」を考えるカルタです。

パンダは何を食べるの？→竹、ザリガニは何を食べるの？→オタマジャクシやヤゴや水草など、アゲハチョウは何を食べるの・・等々です。人気がありました。



観察記録 (10月～11月23日)

ハラビロカマキリ、オオカマキリ、ナガコガネグモ、ゴミグモ、アキアカネ、アカサシガメ、チャバネアオカメムシ、ツチイナゴ、クビキリギリス、セスジツユムシ
トンボ池でザリガニ捕獲100匹、越冬中のカエル

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田 090-1423-9894
坂本 090-4618-1295

1 赤塚城址自然観察と手入れ（第2日曜日）（どなたでも参加できます）

赤塚城址周辺は自然が豊かなところです。コロナ禍でもできること一生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら自然に戻します。ササ刈り等の作業もやります（カマは用意します）。

12月12日（日） 10:00～11:30

1月9日（日） 10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装で、軍手、あれば図鑑など、

2 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ（第4土曜日）

12月25日（土）10:00～11:30（ゴミ拾いもやります）

1月22日（土）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

雨天の場合は中止（または翌日） 問い合わせは：事務局まで

汚れてもよい靴と服装で。軍手（作業手袋）、

3 日暮台公園と樹林地の観察 日暮台公園前集合

12月5日（日）10:00～11:30

1月は休みます

2月6日（日）10:00～11:30

●ビオトープボランティア大歓迎

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があつて楽しいですよ。ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。

●身近な自然情報やご意見などをお寄せ下さい。